

# 交流集会「放射線診療における困難事例に関する 検討会 第2回」

## Opinion exchange meeting on difficult cases in radiological practice Vol.2

大石 景子<sup>1</sup> 松成 裕子<sup>2</sup> 新川 哲子<sup>3</sup>

浦田 秀子<sup>3</sup> 今村 圭子<sup>4</sup>

Keiko OISHI<sup>1</sup> Yuko MATSUNARI<sup>2</sup>

Tetsuko SHINKAWA<sup>3</sup> Hideko URATA<sup>3</sup> Keiko IMAMURA<sup>4</sup>

1 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター

2 鹿児島大学医学部保健学科

3 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科

4 長崎国際大学

1 National Nagasaki Medical Center

2 Kagoshima University Faculty of Medicine School of Health Sciences

3 Nagasaki University Graduate School of Biomedical Sciences

4 Nagasaki International University

臨床における放射線診療の現場では検査や治療など様々な分野が存在する。そういった中で看護が必要とされる場面は多く、実際の事例を通して参加者と共に放射線看護について検討することで、その質の向上と発展に寄与することをねらいとした。

昨年の交流企画では、「初めてPET-CTを受ける患者の看護」を事例とし、各小グループに分かれ、ケアの検討を行った。その成果発表では、多職種間の協働、被ばく防護、さらには倫理的視点でも議論、情報交換がなされ、多くの参加者からも満足のいく評価を得ることができた。そこで、今回は「放射線治療を受ける患者の看護」をテーマとして、乳がんの皮膚転移に対して放射線治療を受ける患者の事例を提供した。WEBでの検討は難しさもあり、個々の疑問、質問に答えながらも、参加者全体に投げかけ、意見交換を行った。

その結果、WEBアンケートの回答は20件を回収、参加満足度に関しては100%が満足との回答であり、また、自施設での活動に活かせるかとの問いには95%が活かせるとの回答であった。このように参加者にとっても放射線治療は、非常に高い関心と期待があり、そして、事例検討での情報交換は直面する課題軽減につながる効果的で満足度の高い内容であることが裏づけられた。さらに次回開催への要望や期待へのコメントも多く、これらをもとに次の大会も継続して企画実施していきたいと考える。